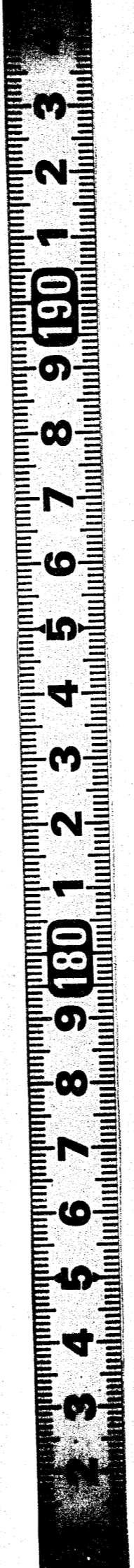
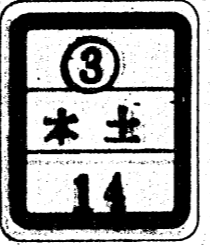


電子複写不可

沖繩軍下在戦闘者調査

才二復員局

防衛研修所図書館



沖繩並に本土作戰に關する調査

第二復員局為務處理部資料課

沖繩並本土作戰に關する調査

一九四五、四、二三  
藤原

被調査者及當該職實在任期間

(F) 元海軍軍令部作戰部長(一九四四、一二、一以降)

海軍少將 富岡定俊

(C) 金登班長 一九四五、六 以降

作戦課長 一九四五、六 以降

海軍大佐 大前敏一

(T<sub>B</sub>) 航空作戰主任(一九四五、一、二五 以降)

海軍中佐 寺井義守

(B) 元聯合艦隊航空作戰主任(一九四四、四、二二終戦迄)

海軍大佐 淵田美津雄

區分回答者

内

容

Q

捷號機略ハ何時崩壊ヲ認識サレタカ

A

T 十二月十五日(一九四四年)米軍ガ「ミンドロ」ニ上陸スル迄

至ツタ時ニ個人トシテハ實質的ニハ崩壊シタモノト認識シタ

形式的ニハ崩壊若ハ放棄ヲ宣明シナカツタガ一九四五年一月二

十日ノ新作戦計畫策定ノ時ト考ヘルノガ至當デアロウ

Q

捷號ニ代ル戰略ハ何日如何ニシテ樹立サレタカ

A

T 自分ハ部長就任早々比島、臺灣、沖繩ヲ觀察シ一九四四年十二

月末歸任シタ 其ノ觀察ノ結果

「比島作戰ノ前途ニ見切リヲツケタ 臺灣ノ防衛ハ自信ヲ持テ

新編成本土計画の要する調査

海軍省  
一六四四、一一、一七

得ナイトノ結論ヲ得タ 獨リ沖繩戦場ノミガ戦勢挽回ヲ策シ得ル決  
戦場デアルトノ確信ヲ得タ

以上ノ結論ニ基イテ新戦局ニ對處スル計畫ノ検討ヲ初メタ 即チ本  
土決戦、沖繩決戦ノ構想ガソレデアル

此ノ検討ノ基礎ニナツタ米軍ノ次期戦略判斷如何

Q  
A T  
米軍ハ次期主進攻目標ハ沖繩ヲ其ノ時機ハ三月中タルコトガ般モ多  
イト判斷シタ 硫黃島モ亦米軍攻撃ノ目標タルベシト考ヘタガ本土  
侵寇ノ爲ノ本格的基地トシテ價値ハ渺イト判斷シタ 臺灣、南支、  
甲支ノ算ハ前二者ニ比シ渺イト考察セラレタ

Q  
A  
(A)海軍々令部ノ作戦課長田口大佐以下作戦課ノ關係者ハ參謀本部ノ  
作戦課ニ對シ一月上旬「海軍ハ五月頃迄大規模ノ航空作戦ヲ遂行  
スルコトガ困難デアル 沖繩航空作戦ハ陸軍ノ獨力ヲ遂行セラレ  
ンコトヲ期待スル」旨申入レタ事實ガアルカ

Q  
A T  
(B)右ノ申出デト富岡部長ノ所信トニ矛盾ガアル様ニ思ハレルガ如何  
(A)其ノ様ナ事實ガアツタコトガ想起サレル

(B)當時軍令部ノ總長、次長、私ノ間デ「ソ」ヲ仲介トスル和平工作  
ノ着想ガ検討サレテ居タ 米軍ニ本土ヲ蹂躪セラレタノデハ民族  
モ國體モ滅亡ニ陥ルコト必然デアル 其ノ本土上陸以前ニ米軍ニ  
一撃ヲ加ヘテ政治工作ノ機ヲ握ムコトガ必要ダト考ヘタ 米軍ト  
雖モ日本本土ニ上陸ヲ強行スルコトハ莫大ナル損害ヲ生ジ「ソ」  
ニ乘セラレル隙ヲ與ヘルコトニナルカラ、日本ガ彼ニ一撃ヲ加ヘ  
其ノ進攻ヲ挫折セシメタル機ニ政治工作ヲ行ヘバ乘ツテ來ル算モ  
アルト考察シテ居タ



此ノ意旨ノ要旨ニテハ、米軍ノ大規模な攻撃ヲ以テ、  
土防軍ノ防衛力ハ、現時ノ如クハ、  
以上ノ諸島ニ於テハ、米軍ノ侵襲ニ堪ヘズ、  
即チ本  
島ヲイテハ、米軍ノ侵襲ニ堪ヘズ、  
即チ本  
島ヲイテハ、米軍ノ侵襲ニ堪ヘズ、  
即チ本

此ノ政治的意圖ハ軍司令部ノ首腦部限リテ密カニ研究サレテ居タモノ  
デ作戰課長以下ニハ全ク知ラセテ居ナカツタ 從テ作戰課長以下ハ  
専ラ航空戦力ノ觀點カラ作戰不可能ヲ申出デタモノト思フ

比島方面ニ於ケル航空戦力ノ甚大ナル損耗ニ因リ航空ノ再建ニ數ヶ  
月ヲ要スル見込ミデアツテ三月若ハ四月ニ以テ想セラルル沖繩作戰ハ  
遂行出來ナイトノ見込ミデアツタカラ田口課長カラ申入レタ 田口  
課長ハ沖繩放棄ノ意見サヘ漏ラシタ

右ノ申入レハ單ニ事務的連絡ノモノカ  
然リ

沖繩航空作戰ハ前述政治的意圖ノ外ニ戰略的ニハ如何ナル見解ノ下  
ニ考案サレタカ

沖繩ハ周邊ニ一九州、奄美大島、先島列島、臺灣、支那一我ガ航空  
基地ガ整備セラレテ居テ航空威力ノ發揮ガ容易デアル 殊ニ沖繩本  
島ハ東海岸ハ上陸ガ困難デ其ノ上陸正面ハ限定セラレル 即チ四周  
ノ我ガ航空基地カラ一點ニ蟻集スル米艦船ヲ攻撃スルコトガ可能デ  
アル

硫黃島ハ距離ノ關係上航空威力ノ發揮ガ困難デアリ又本土ハ正面ガ  
廣大デアルカラ沖繩ニ比シ威力ノ發揮ガ難シイ 沖繩決戦ニハ相當  
ノ自信ガ持テルト思ツタ

若シ此ノ沖繩決戦ニ失敗スレバ遂ニ「ソ」ノ參戰ヲ招來シ「ソ」ヲ  
仲介トスル和平工作ノ望ハ全ク無クナツテ了フ無條件降伏以外ニナ  
イト考ヘラレタ

出陣方面ニ就テハ航空軍ノ甚大ナル進出ニ因リ陸軍ノ再編ニ及  
 事々航空軍ノ進出ニ伴フテ陸軍ノ再編不可成ニ申出テモハ  
 不計難補員以下ニ全ク以テテモ補員ナクハ  
 出ノ進出陸軍ノ再編ニ伴フテ海軍ノ再編ニ及  
 出ノ進出陸軍ノ再編ニ伴フテ海軍ノ再編ニ及

Q 一月二十日作戦計畫ハ何レガ起案シタカ  
 A T 兩者カラ案ヲ出シテ陸軍案ヲ基礎トシテ練成サレタ

Q 二月六日天號航空作戦協定ハ陸、海何レガ起案シタカ  
 A T 右ニ同ジ

Q 一月二十日策定セラレタ作戦計畫ハ海軍航空ノ全カヲ擧ゲテ沖繩ヲ  
 作戦スルコトヲ豫定シナイデ作ラレタモノカ  
 A T 然リ 未ダ沖繩決戦ト云フ思想チハナク持久戦的性格ト云フ認識ノ  
 下ニ作ラレタ 此ノ計畫ハ明確ニ決戦ノ基本計畫ト稱シ得ルモノデ  
 ハナイ 是レガ決戦、天號ノ基礎トシテ作ラレタト斷言出來ナイ  
 味ナ點ガアル

C 當時ノ海軍ノ航空戦力ノ實勢上(特ニ練成ノ観點ヨリ)三月若ハ四  
 月中ニ起リ得ベキ沖繩航空作戦ニハ海軍ハ遺憾乍ラ参加シ得ナイト  
 云フノガ實情デアツタ 訓練未済ノ戦力ヲ逐次消耗スル從來ノヤリ  
 方ヲ戒メ五月頃迄戦力ヲ十分ニ整備シタ上本土ハ勿論沖繩ソノ他ノ  
 正面デ作戦ヲ實施シタイト云フノガ海軍ノ一般ノ希望デアツタ田口  
 大佐ニハ此ノ考ヘガ強カツタ

Q 二月上旬策定セラレタ航空作戦ニ關スル陸海軍中央協定ハ海軍ノ全  
 航空戦力ヲ擧ゲテ沖繩ニ作戦スルコトヲ前提トシテ策定セラレタモ  
 ノカ  
 A T 逐次決意ガ固リツツアツタガ未ダ決定的デハナカツタ

三月六日天晴航空協定ニ於テ運用ヲ決定サレテ居ル兵力ハ海軍約二〇〇〇機、陸軍八一三五〇機（内特攻七四〇機）デアアルガ實際使用サレタノハ更ニ多数デアアル 使用機數ノ視點カラ見テ二月六日以降中途ニ於テ決戰意欲ニ變ツタノデハナイカ  
 概テ決意方固マリツツアツタ 練成ハ固ニ合ハナイガ特攻戰法ニ依リ無理ヲスル考ヘデアツタ 然シ決定的ノ旗ニ迄ハナツテ居ナカク三月二十日ノ當局ノ作戰計畫大綱ヲ發令シタ時ニハ固ツテ居タ  
 值々二週間ノ中ニ航空戦力ノ見透シニ就テ右ノ様ナ變化ヲ生ジタ根拠ハ  
 前述ノ様ナ所信ニ基イテ作戰課長以下ヲ逐次私ノ所信ニ同調サセタ  
 然シソノ指導ハ微温的デアツタ 一月下旬寺井中佐ニ航空戦力ニ就テ詳細ニ敵的檢討ヲ報告サセタ結果必ズシモ不可能デハナイトノ印象ヲ得タ  
 部長ノ要望ニ基イテ計畫ハシタガ飛行機ノ整備、練成等ニ就テ確實ハナカツタ ソコデ米機動艦隊ヲ「ウルシー」基地ニ奇襲シテ痛撃ヲ與ヘ之ニ依ツテ米軍ノ沖縄進攻ヲ遲滞セシメ此間航空戦力ヲ再建センコトヲ企圖シタ 又特攻戰法ノ採用ニ依リ機材ノ整備、練成ヲ簡略ニスルコトトシタ  
 一月二十日ノ作戰計畫ニ掲ゲラレタ沖縄前線據點ニ於ケル航空艦隊作戰ハ本質的ニハ出血ヲ強要シ基地ノ推進ヲ阻止セントヌル持久戰的性格ノモノデハナイカ 而モ海軍ハ陸軍ノ獨力デヤルベキコトヲ期待シタノデハナイカ

二月六日ノ天晴航空協定ニ於テ運用ヲ決定サレテ居ル兵力ハ海軍約二〇〇〇機、陸軍八一三五〇機（内特攻七四〇機）デアアルガ實際使用サレタノハ更ニ多数デアアル 使用機數ノ視點カラ見テ二月六日以降中途ニ於テ決戰意欲ニ變ツタノデハナイカ  
 概テ決意方固マリツツアツタ 練成ハ固ニ合ハナイガ特攻戰法ニ依リ無理ヲスル考ヘデアツタ 然シ決定的ノ旗ニ迄ハナツテ居ナカク三月二十日ノ當局ノ作戰計畫大綱ヲ發令シタ時ニハ固ツテ居タ  
 值々二週間ノ中ニ航空戦力ノ見透シニ就テ右ノ様ナ變化ヲ生ジタ根拠ハ  
 前述ノ様ナ所信ニ基イテ作戰課長以下ヲ逐次私ノ所信ニ同調サセタ  
 然シソノ指導ハ微温的デアツタ 一月下旬寺井中佐ニ航空戦力ニ就テ詳細ニ敵的檢討ヲ報告サセタ結果必ズシモ不可能デハナイトノ印象ヲ得タ  
 部長ノ要望ニ基イテ計畫ハシタガ飛行機ノ整備、練成等ニ就テ確實ハナカツタ ソコデ米機動艦隊ヲ「ウルシー」基地ニ奇襲シテ痛撃ヲ與ヘ之ニ依ツテ米軍ノ沖縄進攻ヲ遲滞セシメ此間航空戦力ヲ再建センコトヲ企圖シタ 又特攻戰法ノ採用ニ依リ機材ノ整備、練成ヲ簡略ニスルコトトシタ  
 一月二十日ノ作戰計畫ニ掲ゲラレタ沖縄前線據點ニ於ケル航空艦隊作戰ハ本質的ニハ出血ヲ強要シ基地ノ推進ヲ阻止セントヌル持久戰的性格ノモノデハナイカ 而モ海軍ハ陸軍ノ獨力デヤルベキコトヲ期待シタノデハナイカ

日本海軍大臣... 海軍大臣... 海軍大臣...  
 二月六日ノ天龍航空作戦...

A T 横村ノ過程ニ在ツタノデ明確デハナイガ概不クノ様ナ考ヘデアツタ

Q 二月上旬策定セラレタ沖繩航空作戦（天龍）ハ決戦的思想ノモノカ

A T 海軍ノ諒解デハ決戦的ナ考ヘデアツタガ未ダ決定的デハナカツタ  
 海軍トシテハ本土ノ決戦ハ必然的ニ陸軍カ主體トナツテヤル作戦ニナ  
 ルト考ヘテ居タ。殘存海上部隊モ本土決戦迄ニハ米航空戦力ニ依リ潰  
 滅スルコトモ豫期セラレ本土海軍戦力ハ僅カニ三乃至四〇万ノ基地部  
 隊ト殘存航空兵力ニ過ギナイト思ハレルカラデアル

O 二月上旬ノ天龍航空作戦協定ノ際モ未ダ海軍ノ全力ヲ投入シテ沖繩ニ  
 決戦ヲ遂行スル迄ノ決意デハナカツタ。舟作戦、潜水艦作戦等ニ依リ  
 敵ノ沖繩若ハ本土方面ヘノ進攻ヲ遲滞サセテ航空戦力ヲ整備センコト  
 ヲ期シタ。此ノ考ヘ方ハ三月中旬<sup>Kd</sup>ガ九州沖ニ來襲スル敵ノアツタ時  
 迄變ラナカツタ。沖繩航空決戦ヲヤルカ、ヤラヌカノ決意ハ九州沖航  
 空戦迄決マラナカツタノガ實情デアル。一月二十日―二月六日ノ間ニ  
 沖繩ヲ捨スル考ヘカラ沖繩決戦ノ考ヘニ變ツタト云フノハ必ズシモ當  
 時ノ實情デハナイ

Q 一月二十日ノ作戦計畫ト二月上旬ノ沖繩航空作戦計畫トノ間ニ本質的  
 ニ變化ガアル様ニ思ハレルガ此點ニ關シテ陸海軍當局者間ニ完全ナル  
 思想ノ統一ガ缺ケテ居タノデハナイカ

A T 文書ノ上デハ一應協定サレタガ思想ノ完全ナル一致ハ缺ケテ居タカモ  
 知レナイ

一九四四年末カラ一月中旬ニ亘ツテ參謀本部作戦部長官崎中將ト再三  
 意見ノ交換ヲ行ツタ。官崎中將ハ當初「陸軍ハ今迄海軍ニ引キツラレ





一九四五年一月... 本誌ニオケルハ... 海軍ハ... 正式ノ名稱ハ...  
 天竺... 海軍... 正式ノ名稱ハ...  
 天竺... 海軍... 正式ノ名稱ハ...

タノデハナカロウカ 何レニシテモ天竺ニ艦乃至天竺艦ハ海軍ハ問題  
 ニシテ居ナカツタ

Q 天竺航空作戦計畫方三月一日迄發令サレテ居ナイノハ何故カ  
 A 事務上ノ理由ダト思フ

TE 即チ天竺ニ参加スル <sup>LOAF</sup>ガ三月一日附ノ編成ガ決定サレテ居タノデ正式  
 ノ發令ヲ三月一日迄延期サレタモノト思フ

勿論其ノ爲ハ二月上旬關係ノ艦隊、領守(警備)府ニ内示サレタ  
 本航空作戦協定ノ成立ハ一九四五年二月初頭デアル  
 正式ノ名稱ハ

航空作戦ニ關スル陸海軍中央協定

Q 天竺航空作戦ノ準備ガ三月末(米軍沖繩進攻時)ニ於テモ出來テ居ナ  
 カツタ原因如何

TE 元々航空戦備ハ(特攻)五月末デナケレバ出來ナイコトハ豫期セラレ  
 タ所デアツタ。第二次丹作戦(「ウルシー」基地ノ攻撃)デ米軍ノ沖  
 繩進攻時機ヲ遅延セシムル希望デアツタガ同作戦失敗ノ結果不準備ノ  
 状態デ沖繩作戦ニ當面セザルヲ得ナイ羽目ニ陥ツタ

Q 二月十六日米機動艦隊ガ初メテ關東ニ來襲シタ際 <sup>GW</sup>ハ捷三艦作戦警戒  
 ヲ發令シテ居ル。既ニ一月二十日ニ新作戦計畫ノ策定ヲ見、二月六日  
 ニハ天竺航空作戦協定ガ成立シテ居ルニ拘ラス而モ捷三艦ノ崩壊ガ懸念  
 サレテ居ル當時ノ狀況デハ奇妙デハナイカ

A 天竺航空作戦計畫ガ正式ニ發令セラレテ居ナカツタノデ警戒方面ヲ指

Q  
A  
T  
B  
C  
D  
E  
F  
G  
H  
I  
J  
K  
L  
M  
N  
O  
P  
Q  
R  
S  
T  
U  
V  
W  
X  
Y  
Z

令スル略號ノ意味デ「捷」號ノ符號ヲ使用シタニ過ギナイ。捷號ノ作  
戰計畫方生キテ居タノデハナイ。天號以外ハ航空戦力温存ヲ主義トシ  
テ居タ  
沖繩航空作戦ノタメ航空戦力ヲ温存スル主義デアツタカラ單ニ警戒ノ  
意義ニ過ギナイモノデア  
一九四五年一月ノ本土方面海軍航空兵力ノ實情ハ如何  
南部九州ニ位置スル十一航空戦隊（機動艦隊攻撃部隊）ガ約二〇〇機  
ヲ擁シテ居ルニ過ギナカツタ  
ソノ他同地域ニ陸軍ノ對 Kdb 攻撃部隊トシテ第七、第七十八飛行戦隊（  
約七〇機）ガ居タ  
ソノ他ノ特攻部隊（3AF）ハ未ダ練成ノ途上ニ在ツタ  
二月頃ノ航空戦力再建ノ見込シ如何  
對 Kdb 部隊ハ五月末ニ再建ガ出來上ル見込ミ  
B 特攻部隊ハ4AFハ四月末  
3AF 5AF ハ三月末ニ辛ウジテ使用シ得ル見込ミ  
從テ天號航空作戦ノ初動ニ於ケル特攻ハ陸軍航空部隊ニ期待スル  
考ヘデアツタ  
A 三月二十日下令セラレタ「海軍方面ノ作戰計畫大綱」ハ本土ノ作  
戰準備ヲ犧牲ニシテモ沖繩ニ海軍ノ全戦力ヲ投入シテ沖繩決戦ヲ  
完遂スル決意デアツタカ  
B 海上部隊ノ投入ヲモ豫定セラレタカ

Q  
A  
B  
C  
D  
E  
F  
G  
H  
I  
J  
K  
L  
M  
N  
O  
P  
Q  
R  
S  
T  
U  
V  
W  
X  
Y  
Z

海軍ニ對シテナクハナクノモノナリ

海軍ニ對シテナクハナクノモノナリ。天龍以テハ海軍ニ對シテ主權アリ。海軍ニ對シテ主權アリ。海軍ニ對シテナクハナクノモノナリ。海軍ニ對シテナクハナクノモノナリ。

A T A 然リ

B 2Fノ投入ハ當時考ヘラレテ居ナカツタ

四月六日ノ2F出陣ニ關シテハ海軍ノ中央部ハ最後迄不同意デアツタ。GFノ熱意ニ引張ラレタ結果デアル

F B 神參謀ガ發意シ直接長官ニ申言シ決裁ヲ得タモノデアアル

GF參謀長モ不同意デアツタシ。BAFモ非常ニ迷惑ガツテ居タ

T B 彼ノ作戦ハ今日猶共感シ得ナイモノデアアル

海軍ニ於テハGF長官ガ作戦ニ關シ廣汎ナル權限ヲ持ツテ居ルノデ中央ノ不同意ニ拘ラス彼ノ權ナ作戦ガ行ハレタ次第デアアル

Q 84Dノ沖繩増援中止ニ就テ陸軍側カラ事前ニ諒解ヲ求メラレタカ

A T 無カツタ

一九四四年末沖繩ヲ觀察シタ際最モ重要ナル北、中飛行場地區ガ配備

空白ニナツテ居ルコトヲ目撃シ本件ヲ重大視シタ。但シ一個師團ガ増

強セラレルコトニナツテ居ルト聞イテ陸軍側ヲ信ンジテ安心シテ居タ

84Dノ増援中止後沖繩ニ對スル兵力増強ニ就テ海軍側カラ陸軍側ニ如何ナル交渉ガ行ハレタカ

A T 本交渉ハ三月中旬ニ至ル迄反覆執拗ニ行ハレタ

私モ自ラ當時作戦部長ニ再三交渉シタ。之ニ對シ陸軍側ハ船舶ノ都合ヤ他カラ投入シ得ル兵團ヲ物色中等ヲ口實トシテ糊塗シ續ケタ

一九四五年三月十七日九州沖ニ米機動艦隊ガ來襲シタ際ノ敵情判斷ハ如何